

ふるさと応援団木島平会会報

今シーズンも「やっぱ木島平」です！

秋も深まりふるさと木島平もめっきり寒くなり、標高の高い所では初雪の便りが届く季節となりました。来月 20 日にはスキー場もオープンとなり本格的なスキーシーズンを迎えるばかりとなりました。

今シーズンは山頂から大自然の中を滑り降りる雄大な林間コースや全長 800 メートルの超ロングソリコース、うさぎと遊べる小動物エリアを備えたキッツワールドなど上級者からファミリーまで楽しめる魅力いっぱいスキー場に生まれ変わりました。また、シーズン中楽しいイベントも盛り沢山です。今シーズンの初滑りはご家族・ご友人等では非、木島平へお越しください。広大なゲレンデと大パノラマが皆様をお待ちしております。



☆区民の声☆ 元気な活動や自慢、今後の展望を紹介

栄町区

地区のテーマ 村の玄関口として
(将来像) 明るく住み良い環境づくり

栄町区は樽川橋から続く県道沿いに「村の玄関口」として昭和 46 年に中村の一部と南鴨の一部が合併して誕生した区で、現在「明るく住み良い環境づくり」をテーマに取り組んでいます。

私たち栄町区は戸数 28 戸と小さな区で高齢化も進んでいます。テーマ実現のために村づくり委員を先頭に村の玄関口にふさわしいようにと、樽川橋沿いの道路わきに草花や樹木を植え、草取りや水やりにと区民全員が積極的に協力して活動しています。

また、環境美化への関心を深めてもらおうと、各家庭や商店に大小のプランターを置き様々に手入れをしています。栄町区を行き来するたびに四季折々の花々を楽しんでいるだけでなく、活動に取組んでいます。今後とも環境美化活動を通じて区民の更なる親睦を深めていきたいと考えています。



▲村の玄関口として美しく保たれた花壇
(樽川橋ポケットパーク付近)

自然劇場きじま平と私

小林建夫 (小見出身)

「ふるさととは遠くにありて思ふもの」は、室生犀星の句である。故郷を離れ、東京の某国立大学に事務職として就職し 42 年余の間、故郷を遠くから見てきた。ということは丁度今年で還暦を迎え、同時に定年を迎えることとなる。

田舎には、独身時代は夏休みと冬休みには一週間ぐらいと、結婚後は子どもを連れて帰っていたが、子どもが大きくなり親と一緒に行動しなくなつてからは帰るのも段々と遠のいていた。この 42 年間に田舎が大きく変わったところと昔のままのところがある。非常に変わつてしまひ昔の面影が全くなり寂しく残念な箇所を 3 つほど記述させていただく。

第一は、昭和 57 年の台風豪雨災害により樽川堤防が決壊し、飯山市木島 (通称・小見島を含む) 全域が浸水し、東京にいてテレビ報道されたのが記憶にまだ残っている。

このお陰で樽川の堤防を高くし、対岸に今まで堤防がなかった小見地区から古町地区方面にかけて堤防が新たに設置されることとなり、小見区の神社がこの堤防により埋没するため移転することとなった。移転前の神社は大きなケヤキや杉の木に囲まれ子どもたちの集いの場所であり、三角ベースなどで遊んだものであったが、完全にその姿が消えてしまった。



第二は、家から北部小学校に歩いて通う道中 (県道ではなく裏道) に御殿と称した区域と伊藤病院 (学校医) があつた。その道は緩やかな傾斜とカーブした細道で草が生え歩くところだけ草がなく、その周りはりんごの木や桑の木などの畑であり、学校の帰りに桑のみを食べ、手や口を紫色に染めた思い出が残っている。今では住宅街となり伊藤病院も移転し、当時の面影はない。

第三は、実家であるが、徐々に改築が行われてきてはいたが、両親も亡くなり昔の家は一昨年で取り壊されて立て替えられた。

さて、来年で定年を迎えるにあたり、第一に 18 歳まで育つた故郷、第二に 42 年間を過ごした東京を経て現在において、今まで遠く離れた故郷を思い、第三の人生をどこで何をして過ごそうか思案中であるが、田舎で育つた者として田舎暮らしが一番ふさわしいかなとも思うこの頃である。

木立ダリア

この春、ふるさと応援団会長の石川夫妻から木立ダリアの苗をいただき役場の花壇に植えてから約半年が経ちました。現在は草丈が 3 メートル以上、蕾も見られるようになり開花まであと少し? ・開花が先か初雪が先かと毎日観察しています。

木立ダリア (別名 皇帝ダリア) はメキシコ原産のキク科の植物で、草丈が 3 から 4 メートルにもなる超大型種です。花はピンク色で直径約 20 センチの大輪の花をスツと伸びた茎の頂上につけます。日照時間が短くなると花が咲く短日植物に分類され、晩秋のこの時期に花を咲かせます。

